

精神科専門研修プログラム

精神医療と精神福祉の総合サービス

社会医療法人北斗会 さわ病院

2027年度

さわ病院 精神科専門研修プログラム

はじめに



一人前の精神科医師になるために

治療の対象は本人ですが、より広くその人を取り巻く人たち（家族や地域支援者、かかりつけ、他科、行政など）らの安心をいかに提供できるかが課題であり、チーム医療の実践が必須です。

そのためには、外来や入院治療が一人でできるようになることはもちろん、精神科救急や地域精神科医療の担い手として、さらに超高齢社会においては認知症をはじめとする高齢者や身体的な問題を抱える人たちへの対応も求められます。

より専門性の高い治療（修正型電気けいれん療法やクロザピン治療）、サブスペシャリティの習得も望まれます。超高齢化社会において認知症や老年精神医学、さらにリエゾン精神医学を習得することも重要です。他、職場のメンタルヘルスや睡眠障害の治療の経験も望ましいと考えています。

地域にて本人を支えるためには、家族はもちろんのこと、かかりつけ医や地域支援者、行政らと協働し、「病院をでて」治療をするという心構えが必要です。そのためにアウトリーチ（患者の求めているところに赴いて治療をしていく）という概念が重要です。

1 か所ではなく複数の環境で研修することで幅が広がります。

さわ病院とは

さわ病院は大阪府北部における中核的な民間の精神科救急病院です。精神科救急を診療の軸とし、1ヶ月のうち20日以上、夜間休日の精神科救急センターの当番および措置鑑定の当番にあたっており豊能二次医療圏を管轄しています。また当院は、認知症疾患医療センターを併設しており、鑑別診断や周辺症状の治療などの診療だけにとどまらず、他の医療機関や福祉機関、行政機関とも連携し豊能二次医療圏の認知症政策も支えています。

さらに、精神科患者の身体合併症治療を円滑にできるようにするため、近隣の総合病院に精神科医師を週1～2回派遣して、従来の枠組みにとらわれない、顔の見える病病連携をおこなっています。地域医療を支えるため「迅速性、責任性、継続性」を病院の基本方針として掲げ、「待たせない」「断らない」医療を目指しています。

さわ病院とは

長年のあいだ、精神科専門医研修施設、卒後臨床研修病院（市立池田病院、愛仁会千船病院、済生会茨木病院、宝塚市立病院、済生会中津病院、済生会千里病院、済生会吹田病院、淀川キリスト教病院の協力型研修病院）、奈良県立医科大学、神戸大学の医学生の実習病院として、精神医学教育・研修の役割を担ってきました。

毎年多くの医師がスキルアップのために入職し、特に若い医師が多く在籍しており、これまでに日本精神神経学会認定の精神科専門医（過渡的措置を除く）、日本老年精神医学会専門医、精神保健指定医を数多く養成してきた実績があります。

概要と実績

- 場所：大阪府豊中市
- 病院機能：精神科単科
- 病床数：455床
- 救急受け入れ件数：721件/年（2025年）
- クロザピン治療：148名（2026年1月登録数）
- 修正型電気痙攣療法（m-ECT）
：497件/年（2025年）



さわ病院 精神科専門研修プログラム

プログラム の特徴



「さわ病院連携プログラム」について

本プログラムは、「さわ病院」が基幹施設となり、それぞれ特徴のある連携施設と協力し、地域・医療機関を問わず日本中どこでも活躍のできる臨床精神科医を養成することを目指しています。本プログラムでは指導医が豊富なため、専攻医に対して手厚くきめ細かな指導ができ、精神科医としての基本的な倫理性や患者及び患者家族への思い、地域医療のありかた、疾病に対する学問的な態度を学ぶことができます。また、日本老年精神医学会、日本認知症学会の認定施設であり、それぞれの学会認定専門医を習得することが可能です。なお、精神保健指定医の申請に必要な症例は、プログラム終了時点で自ずと経験しています。

豊富な症例

- 症例数の多さ

精神科救急を軸として様々な症例を経験することができ、精神科医としての基礎力・応用力が自然に身に付きます。また、**精神保健指定医の申請に必要な症例も十分集まります。**

- 幅広い疾患を治療

当院では精神保健福祉法に定める入院形態をすべて受け入れており、さらに医療観察法の鑑定入院や指定通院患者も受け入れています。

- 難治性精神疾患に対する専門的治療法も経験できます

修正型電気痙攣療法（mECT）を麻酔科専門医の管理の下で行っており、最先端の電気治療技法を習得することができます。

また当院は、クロザリル患者モニタリングサービス(CPMS)の登録医療医機関となっておりCPMS登録医とともに診療に当たることでクロザピンによる治療経験を積むことができます。

充実の指導体制

- 専攻医指導専任の医師を招聘

高知大学医学部精神科名誉教授の井上新平先生をお迎えして、専攻医をはじめとした医局員の指導を毎週お願いしており、専攻医の診察への陪席（！）もご指導していただくこともあります。



- 手厚い指導体制

研修1年目は各専攻医へ1名ずつ指導医を配置するマンツーマン体制です。当直時も上級医と二人体制をとっており、不安なことや対応に困ることがあれば、いつでも相談できます。

- 大学病院並みの指導医数

基幹施設のさわ病院には、精神科指導医が7名在籍しています。また、日本老年精神医学会指導医1名、日本総合病院精神医学会指導医1名、日本認知症学会指導医2名が在籍しています。

働きやすい職場

- 柔軟な勤務体制

さわ病院は水曜、日曜の週休2日制をとっています。

さらに、午前休、午後休のシステムも確立しており、当直明け等での体力的な負担をできるだけ軽減するようにしています。勤務年数に関係なく、各先生のニーズに沿ったフレキシブルな勤務スケジュールを組み、リフレッシュ休暇（7日間）の取得も可能です。

- 風通しのよい医局

医師員の出身大学は様々で、出身大学、年齢、性別、国籍による区別はありません。医局内は和やかな雰囲気、些細な事でもすぐに相談できます。

- 立地条件の良さ

基幹施設のさわ病院は、梅田まで約30分という立地で、空港や新幹線へのアクセスも非常に良いため、就業後に勉強会や講演会に出かけることも可能です。



子育てへの支援

- 現在、女性医師は5名（ママさんドクターもいます）
常勤医4名
非常勤医1名



- 男性医師、女性医師にかかわらず産休・育休制度があり、付属の保育園も完備しています。保育園はリニューアルしたばかりです。育児中の時短勤務にも個別に応じます。
- 若い医師の中には子育てをしている医師も多く、出産、育児に対する医局員の理解は良好です。

さわ病院 精神科専門研修プログラム

プログラムの 流れ



専門研修施設群および各研修領域

Aコース

大阪急性期・
総合医療センター
身体合併症/リエゾン
救急との連携

平和病院
地方型精神科

C-1コース

(精神神経科(成人期))

大阪市立
総合医療センター
身体合併症/リエゾン
救急との連携

ほくとクリニック病院
都市型精神科救急

C-2コース

(児童青年精神神経科)

大阪市立
総合医療センター
身体合併症/リエゾン
児童青年精神科

ほくとクリニック病院
都市型精神科救急

Dコース

大阪赤十字病院
身体合併症/リエゾン

ほくとクリニック病院
都市型精神科救急

Eコース

亀田総合病院
身体合併症/リエゾン

ほくとクリニック病院
都市型精神科救急

Bコース

大阪急性期・
総合医療センター
身体合併症/リエゾン
救急との連携

ほくとクリニック病院
都市型精神科救急

Fコース

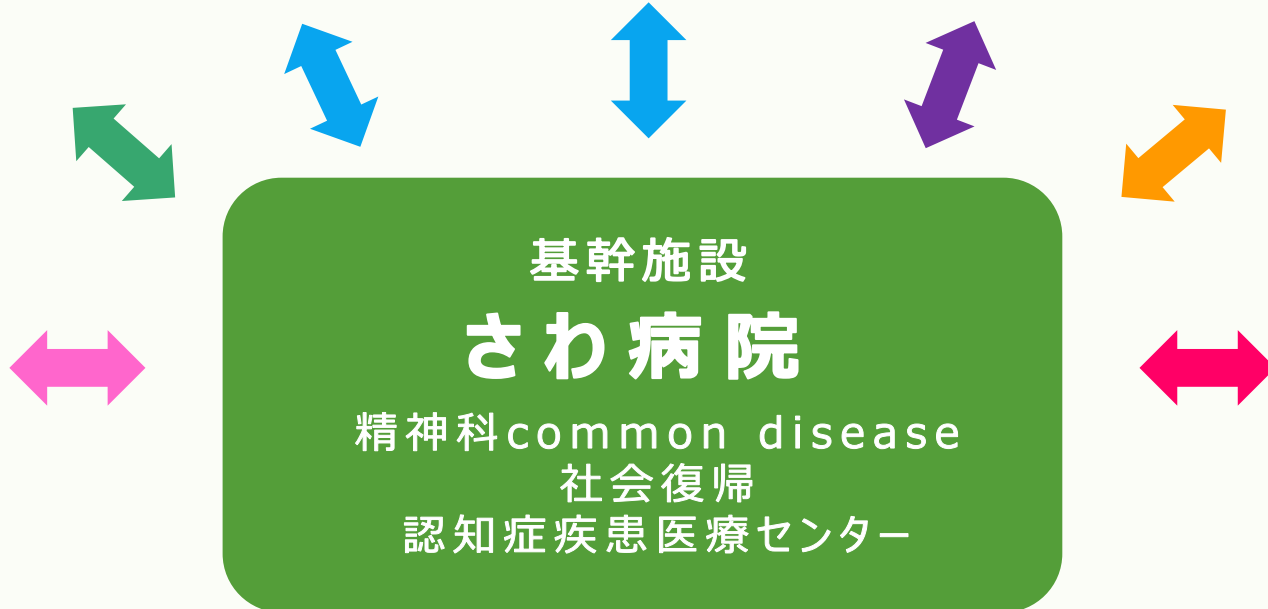
大阪医科薬科大学
身体合併症/リエゾン
救急との連携

ほくとクリニック病院
都市型精神科救急

基幹施設

さわ病院

精神科common disease
社会復帰
認知症疾患医療センター



研修プログラム ローテーションモデル

研修のローテーションは、本人と十分に協議のうえ決定します。

コース名	1年目	2年目	3年目
Aコース	さわ病院（大阪）	大阪急性期・総合医療センター さわ病院（大阪）	平和病院（沖縄） さわ病院（大阪）
Bコース	さわ病院（大阪）	大阪急性期・総合医療センター さわ病院（大阪）	ほくとクリニック病院（大阪） さわ病院（大阪）
C-1コース 精神神経科(成人期)	さわ病院（大阪）	大阪市立総合医療センター さわ病院（大阪）	ほくとクリニック病院（大阪） さわ病院（大阪）
C-2コース 児童青年精神神経科	さわ病院（大阪）	大阪市立総合医療センター さわ病院（大阪）	ほくとクリニック病院（大阪） さわ病院（大阪）
Dコース	さわ病院（大阪）	大阪赤十字病院 さわ病院（大阪）	ほくとクリニック病院（大阪） さわ病院（大阪）
Eコース	さわ病院（大阪）	亀田総合病院（千葉） さわ病院（大阪）	ほくとクリニック病院（大阪） さわ病院（大阪）
Fコース	さわ病院（大阪）	大阪医科薬科大学 さわ病院（大阪）	ほくとクリニック病院（大阪） さわ病院（大阪）

連携施設1：ほくとクリニック病院

大阪市内の精神科救急病院として24時間救急対応ができる病院を目指し2008年9月1日に開院した。その後2009年2月には精神科救急入院料（50床）1単位を承認された。設立当時は大阪府人口880万人（内大阪市内260万人）において大阪市内には単科精神科病院はなく、精神科病床は総合病院に160床あるのみであった。大正区の特徴としては大阪市の中心に位置し、どの区からも約6km以内で受診までの時間の短縮が期待できる。また大正区という土地柄は大都市の下町的雰囲気を残しており、人と人とのつながりを大切にした人情の厚い地域でもあり、基幹施設のさわ病院とは異なる様々な患者層を経験できる。診断的には初診患者はさわ病院に比べて神経症圏、気分障害圏が多いが、また薬物やパーソナリティ障害圏の症例も多数経験できる。また大阪市内の六つの認知症疾患医療センターのうちの一つ（中央エリア、地域型）があり、大阪市内の認知症医療の中核を担っている。その他にはさわ病院と同じく、精神保健福祉法に定める入院形態をすべて受け入れているが、さらに医療観察法の鑑定入院や指定通院患者も受け入れている。



連携施設2：大阪急性期・総合医療センター

高度救命救急センターを含む29診療科、865床を有する公的基幹総合病院であり、精神科閉鎖病棟（34床）を有している。

精神科は高度救命救急センターと密に連携しており、救命救急医療の現場での精神科診療を十分に

体験できる。また、ほぼすべての診療科の協力を得ながら、身体合併症患者の治療を積極的に行っており、一人の患者を複数の診療科で診る経験を重ねることにより、チーム医療の重要性を学ぶことができる。救急病棟以外の他科病棟への往診（年間約700件）では、一般病棟におけるせん妄・抑うつ・認知症等への対応、および、緩和ケア医療を学ぶことができる。



連携施設3：平和病院

医療法人社団志誠会は212床の単科の精神科病院と生活訓練施設や複数のグループホームからなる精神障害者の社会復帰施設群及び認知症専門棟を有する140床の老人保健施設から成り立っている。

平和病院では、精神科救急入院病棟及び、2021年1月より認知症治療病棟を開設し、統合失調症や気分障害、認知症のBPSD等の治療に関して薬物療法を中心に行っている。一方、療養病床においては社会復帰施設群やデイケア、訪問看護等を活用し精神疾患の地域包括ケアシステムに取り組んでいる。急性期の治療と社会復帰に向けてのリハビリが特徴である。



連携施設4：大阪市立総合医療センター

大阪市立総合医療センターは、許可病床数は1,063床で、9つの臓器別センター、57の診療科を擁し、がん医療、小児医療など高度・専門的医療を提供しているほか、周産期医療、3次救急と小児3次救急医療機関、第一種・第二種感染症指定医療機関であり、精神科救急・合併症医療、災害医療などの政策医療も担っている。精神科は、18歳以上を対象とし28床の病棟を持つ『精神神経科(成人期)』と、18歳未満を対象とし22床の病棟を持つ『児童青年精神科』の2科2病棟があり、「こどもからお年寄りまで」の全年齢層の患者を対象とした精神医療を行っている。ここでは、統合失調症や気分障害、神経症圏等の一般の精神科疾患の診断、治療を習得できる。さらに、精神科救急医療として緊急措置入院医療を経験することができるほか、総合病院精神科として精神科単科病院と連携した精神科合併症医療や、院内身体診療科の治療を受けている患者の精神症状に対するコンサルテーション・リエゾンや緩和医療における精神科治療・関与を習得できる。また、児童思春期病棟を活用した摂食障害や被虐待児の心の問題、また発達障害の精神科治療・関与を習得できる。このような中で、定例の病棟カンファレンス、症例検討会等により、症例への理解を深めるとともに、治療関係を含めた精神療法的関与、薬物治療等について学習、習得をはかる。また、関与した症例について学会発表、論文発表を行うよう指導を受ける。



連携施設5：大阪赤十字病院

大阪赤十字病院は日本赤十字社の中では最大規模の病床を有する高度急性期治療に特化した医療施設である。

ここに併設されている精神神経科は、42床からなる閉鎖病棟を有し、5名の常勤の精神科医が臨床に従事している。

全員が精神保健指定医かつ日本精神神経学会認定専門医

であり、うち4名は指導医の資格も有している。精神神経科の活動は以下の3点にまとめることができる。まず第一に総合病院有床精神科として、精神障害者の高度急性期医療の支援、一般身体科と協力して、ステロイド精神病、抗NMDA受容体脳炎などの症状精神病、器質性精神病の治療にあたること、MRI、MIBGシンチ、DATスキャンなどを用いて認知症などの画像診断と治療を行うこと。第二に地域の精神医療に貢献すること、特に修正型電気けいれん療法やクロザリルなどを用いて難治性精神障害の治療に従事すること。第三に公的医療機関として、措置入院、医療観察法鑑定入院などを受け入れ、当該患者の治療や鑑定作業に従事すること。入院・外来ともに、幅広い症例を経験でき、多岐にわたる診断・治療技法が習得できる。



連携施設6：亀田総合病院

亀田総合病院は千葉県鴨川市にある、南房総地区の医療拠点となる大規模総合病院で、一般科865床・精神科38床を有し、診療科33科、常勤医師512名、初期研修医48名（2024年）が在籍している。救命救急センターやがん拠点病院、周産期医療センター等に指定され、高度専門医療も提供している。日本初のJCI認証を受けるなど国際的な視野を持っている。

精神科は2005年より有床で本格的に始動し、精神科救急や身体合併症治療に加え、特にリエゾン医療に注力し日本の有床精神科で最初に精神科リエゾンチームを結成し活動してきた。理念は「連携」「柔軟性」「地域に根ざした医療と国際的な視野」「多職種協働のチーム医療の拠点」であり、今もその価値を保ち続けている。



連携施設7：大阪医科薬科大学

大阪医科薬科大学病院の精神神経科は、大学病院精神科として31床のベッド数を有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。また3次救急施設が院内に存在することから自殺企図などの急性期身体疾患を併存する精神疾患の治療も担うこととなる。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護・心理・リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法、クロザピン療法などの治療を柔軟に組み合わせ、最善の治療を行っていく。



専門医プログラム：Aコース



初年度：さわ病院

基幹施設にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身に着ける。

2年度：大阪急性期・総合医療センター及びさわ病院

研修連携施設である大阪急性期・総合医療センターにてリエゾン・コンサルテーション、身体合併症及び救急との連携などについて学習する。同時期に、月2回程度さわ病院の当直をし、同じく、月2回程度、ほくとクリニック病院で外来業務（初診・再診）を上級医の指導下でおこなう。

3年度：平和病院

沖縄県の平和病院にて、精神科の急性期治療と入院患者の社会復帰について特に学ぶ。患者の社会復帰を通して、地域連携や地域包括ケアの実際を主治医として体験し、地域医療の実際を学習し、多職種との関係を構築することも学ぶ。

専門医プログラム：Bコース



初年度：さわ病院

基幹施設にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身に着ける。

2年度：大阪急性期・総合医療センター及びさわ病院

研修連携施設である大阪急性期・総合医療センターにてリエゾン・コンサルテーション、身体合併症及び救急との連携などについて学習する。

3年度：さわ病院及びほくとクリニック病院

再び基幹施設のさわ病院にて、精神科医療の最前線における精神科臨床医として、初診および再診外来診察と入院担当医として診断、治療、社会復帰等について指導医、上級医からのスーパーバイズを受けながら学び、臨床能力を研鑽し、特定医師として精神保健福祉法や関連法規に関する基礎知識を学習する。同時期に、ほくとクリニック病院で当直を上級医の指導下でおこなう。

専門医プログラム：C-1コース (精神神経科コース(成人期))



初年度：さわ病院

基幹施設にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身に着ける。

2年度：大阪市立総合医療センター

研修連携施設である大阪市立総合医療センターにてリエゾン・コンサルテーション、身体合併症及び児童青年期から成人期までの精神疾患などについて学習する。精神神経科(成人期)と児童青年精神科の両科それぞれの独立した病棟を有し、小児科や産科を含めた全診療科と連携して診療できる、他に類をみない“開かれた”精神科でC-1コースでは精神神経科(成人期)を主に学ぶ。

3年度：さわ病院及びほくとクリニック病院

再び基幹施設のさわ病院にて、精神科医療の最前線における精神科臨床医として、初診および再診外来診察と入院担当医として診断、治療、社会復帰等について指導医、上級医からのスーパーバイズを受けながら学び、臨床能力を研鑽し、特定医師として精神保健福祉法や関連法規に関する基礎知識を学習する。同時期に、ほくとクリニック病院で当直を上級医の指導下でおこなう。

専門医プログラム：C-2コース (児童精神神経科コース)



初年度：さわ病院

基幹施設にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身に着ける。

2年度：大阪市立総合医療センター

研修連携施設である大阪市立総合医療センターにてリエゾン・コンサルテーション、身体合併症及び児童青年期から成人期までの精神疾患などについて学習する。精神神経科(成人期)と児童青年精神科の両科それぞれの独立した病棟を有し、小児科や産科を含めた全診療科と連携して診療できる、他に類をみない“開かれた”精神科でC-2コースでは児童精神神経科を主に学ぶ。

3年度：さわ病院及びほくとクリニック病院

再び基幹施設のさわ病院にて、精神科医療の最前線における精神科臨床医として、初診および再診外来診察と入院担当医として診断、治療、社会復帰等について指導医、上級医からのスーパーバイズを受けながら学び、臨床能力を研鑽し、特定医師として精神保健福祉法や関連法規に関する基礎知識を学習する。同時期に、ほくとクリニック病院で当直を上級医の指導下でおこなう。

専門医プログラム：Dコース



初年度：さわ病院

基幹施設にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身に着ける。

2年度：大阪赤十字病院

研修連携施設である大阪赤十字病院にてリエゾン・コンサルテーション及び身体合併症について学習する。当病院は公的医療機関として措置入院、医療観察法鑑定入院などを受け入れている側面もあり入院・外来ともに、幅広い症例を経験でき、多岐にわたる診断・治療技法が習得できる。他科と協働して一人の患者に向き合うことで、チーム医療におけるコミュニケーション能力を養う。

3年度：さわ病院及びほくとクリニック病院

再び基幹施設のさわ病院にて、精神科医療の最前線における精神科臨床医として、初診および再診外来診察と入院担当医として診断、治療、社会復帰等について指導医、上級医からのスーパーバイズを受けながら学び、臨床能力を研鑽し、特定医師として精神保健福祉法や関連法規に関する基礎知識を学習する。同時期に、ほくとクリニック病院で当直を上級医の指導下でおこなう。

専門医プログラム：Eコース



初年度：さわ病院

基幹施設にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身に着ける。

2年度：亀田総合病院

研修連携施設である亀田総合病院にてリエゾン・コンサルテーション及び身体合併症について学習する。「連携」「柔軟性」「地域に根ざした医療と国際的な視野」「多職種協働のチーム医療の拠点」の理念のもと、日本初のJCI認証を受けるなど国際的な視野を持つ亀田総合病院にて国際標準でのチーム医療を学ぶ。

3年度：さわ病院及びほくとクリニック病院

再び基幹施設のさわ病院にて、精神科医療の最前線における精神科臨床医として、初診および再診外来診察と入院担当医として診断、治療、社会復帰等について指導医、上級医からのスーパーバイズを受けながら学び、臨床能力を研鑽し、特定医師として精神保健福祉法や関連法規に関する基礎知識を学習する。同時期に、ほくとクリニック病院で当直を上級医の指導下でおこなう。

専門医プログラム：Fコース



初年度：さわ病院

基幹施設にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身に着ける。

2年度：大阪医科薬科大学

研修連携施設である大阪医科薬科大学にて教員の指導を受けながら、看護・心理・リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法、クロザピン療法などを柔軟に組み合わせた最善の治療を学ぶ。

3年度：さわ病院及びほくとクリニック病院

再び基幹施設のさわ病院にて、精神科医療の最前線における精神科臨床医として、初診および再診外来診察と入院担当医として診断、治療、社会復帰等について指導医、上級医からのスーパーバイズを受けながら学び、臨床能力を研鑽し、特定医師として精神保健福祉法や関連法規に関する基礎知識を学習する。同時期に、ほくとクリニック病院で当直を上級医の指導下でおこなう。

週間スケジュールの一例（さわ病院）

再診外来（1～2回）、初診外来または精神科救急外来（1～2回）、家族面談（入院患者様のご家族との面談、隔週）が基本です。当直（17:00～9:00）は月に4回が基本で、その他に水曜、日曜、祝祭日の日直（8:45～17:00）が月に1～2回程度あります。

	月	火	水	木	金	土	日
午前	認知症疾患 センターの 診療陪席 (mECT陪席)	外来業務	休診日	病棟業務 (mECT陪席)	外来業務	病棟業務	休診日
午後	病棟業務 症例検討会	病棟診察 勉強会	休診日	午後休 (例)	病棟業務 病棟カンファ レンス	病棟診察 隔週で 家族面談	休診日
夕方		医局会 症例検討会					

取得資格について

主な取得資格

- 精神保健指定医
- 日本精神神経学会専門医・指導医
- 日本老年精神医学会専門医・指導医
- 日本認知症学会専門医・指導医
- 日本睡眠学会専門医・指導医
- 日本精神科救急学会認定医・指導医
- 日本児童青年精神医学会認定医
- 精神保健判定医
- 日本DPAT 他

さわ病院 精神科専門研修プログラム

学びの機会



医局会、症例検討会

当院では医局会、症例検討会等を定期的に行っております。

《主なカンファレンス》

医局会（毎週）、医局症例検討会（毎週）、心理・医局症例検討会（月1回）

研修医向けケースカンファレンス（毎週）、社会復帰施設症例会議（月2回）

救急入院料病棟カンファレンス（随時）、病棟カンファレンス（随時）

E C Tおよびクロザピン治療症例検討会（随時）

認知症専門病棟での定期カンファレンス（随時）

各種院内委員会などへの出席（随時）



外部講師の招聘

幅広い知識を養うため、国内外のあらゆる方面でご活躍されている
次のような講師を招聘し、さわ病院内で講習会を実施しています。

笠井宏委先生	京都大学医学部附属病院 臨床研究総合センター
星野絵里先生	聖路加国際大学 公衆衛生大学院
尾崎米厚先生	鳥取大学医学部医学講座 環境予防医学分野
金城文先生	鳥取大学医学部医学講座 環境予防医学分野
大路剛先生	神戸大学病院感染症内科
Evan Garner, MD	El Camino Hospital, California
田井麻美先生	高知大学医学部付属病院 次世代医療創造センター
小川雄右先生	京都大学医学部附属病院 総合臨床研究・研修センター
崔炯仁先生	医療法人稲門会 いわくら病院
兼本浩祐先生	愛知医科大学
福生泰久先生	医療法人社団澤記念会 神経科浜松病院
辻井農亜先生	近畿大学医学部 精神神経科学教室
田代志門先生	東北大学大学院文学研究科
堺琴美先生	平成学術振興財団 平成医療福祉グループ総合研究所

学会・研究会発表の奨励

さわ病院では、日々の臨床業務を行うことも大切ですが、医療に対する探究心を持ち続けることも大切だと考えています。その1つに、学会・研究会での発表を奨励し、サポートをおこなっています。希望される研修医には、発表に必要な指導を懇切丁寧に行います。



学会・論文発表の実績

《主な学会発表実績》

近畿精神神経学会※

日本精神神経学会学術総会 ポスター発表

日本精神科救急学会学術総会 演題発表

老年精神医学会 発表

日本精神神経学会シンポジウム 発表

ICME International Conference on Complex Medical Engineering 発表

※専門医受験資格のため本学会での第1演者としての発表を推奨

《主な論文掲載実績》

Risk Factors of a Suicide Reattempt by Seasonality and the Method of a Previous Suicide Attempt: A Cohort Study in a Japanese Primary Care Hospital

Suicide and Life-Threatening Behavior : 28 December 2016

カナダ・バンクーバー海外研修

海外の医療制度や医療現場を知り、今後の医療活動に役立てるため、海外研修も行っています。当法人で精神保健指定医として一定の勤務後に、ブリティッシュコロンビア大学精神科、バンクーバーコスタルヘルスの関連病院への留学も可能です。

バンクーバー総合病院



セントポール病院



睡眠外来について

2017年4月より睡眠障害を専門に扱う睡眠外来を開始し、日本睡眠学会の認定医が、各種睡眠障害の診断・治療を行っています。

- 院内には専用の個室を設け、終夜睡眠ポリグラフ検査（PSG検査）による睡眠時無呼吸症候群等の精密検査を行っています。
- 睡眠外来担当の医師はRPSGT（米国睡眠検査技師資格）を取得しています。
- 日本睡眠学会登録医療機関



児童思春期外来

精神医療において高まる需要に対応し、また地域精神医療への更なる貢献をはかり、2025年4月より児童思春期外来を開始しました。

依存症専門外来 依存症回復プログラム

地域で長らく不足していた依存症対応について、2026年春の専門外来開設ならびにリハビリプログラムとの連携を開始。



災害支援への取り組み

精神科救急病院の持つスキルやノウハウを活かし、被災者の役に立ちたいとの思いから災害支援活動にも取り組んでいます。

- 医師5名を含む、21名がDPAT隊員として登録しており、2020年2月中国武漢からの帰国者対応、2024年能登半島地震にDPAT隊員を派遣し支援活動を行いました。
- 毎月災害対策委員会を開催、地震・台風の自然災害やサイバーテロ等の有事に備え、研修や訓練を実施しています。
- 当院は府内に3か所ある「災害拠点精神科病院」に指定されており、災害時の精神科医療の拠点としての役割が期待されています。



さわ病院 精神科専門研修プログラム

病院見学 について



アクセス：さわ病院

■ 阪急宝塚線

「服部天神」駅より徒歩12分
「曽根」駅より徒歩12分

■ 「服部天神」駅より

「大阪梅田」駅へ 直通12分

「宝塚」駅へ31分

「神戸三宮」駅へ36分 ※十三で特急に乗り換え

「新大阪」駅へ 車で15分

※「服部天神」駅からは南方で御堂筋線に乗り換えで20分

「大阪空港」駅へ15分

※蛍池駅でモノレールに乗り換え

USJまで50分 ※乗り換え時間含む



申し込み方法

■見学日時

随時受け付けていますので、ご都合に合わせて申し込みください。
見学内容についても、個別相談に応じます。

■メールでの申し込み

E-mail: watanabe@hokuto-kai.com
担当者：院長代行 渡邊 治夫
(プログラム統括責任者)

■HPからの申し込み

下記URLより申し込みください
URL: <http://www.hokuto-kai.com/>
※詳細はページ右を参照ください⇒

■QRコードからの申し込みはこちら



The screenshot shows the Sawabon Hospital homepage. At the top, there is a navigation bar with links for Home, Hospital Introduction, Outpatient Services, Mental Health Emergency Services, Inpatient Services, and Access. Below the navigation bar is a large banner image of the hospital building with the text "精神医療と精神福祉の総合サービス" and "社会医療法人北斗会 さわ病院".

On the right side of the page, there is a "採用情報" (Recruitment Information) section. A blue callout bubble with the text "① クリック" (Click) points to the "医師募集" (Recruitment) button in this section.

Below the recruitment section, there is a "医師募集" (Recruitment) section. A blue callout bubble with the text "② クリック" (Click) points to the "医師募集" button in this section.

At the bottom of the page, there is a "病院見学のお申し込み" (Apply for Hospital Visit) button. A blue callout bubble with the text "② 「病院見学のお申し込み」をクリック" (Click "Apply for Hospital Visit") points to this button.

一緒に働ける日を
楽しみにしています!



さわ病院連携プログラム一同